



念仏者の言葉

我が身を深く悲しむ心に

仏法の言葉が響く

宮城 顛しずか



この寺報「願生がんしょう」は私が二〇一〇年に黒部へ帰ってきて、少しでも仏教の教えやお寺の事を知ってもらおうと思い、年に四回の発行を始めました。気が付けば今回で四十八号になり、今年中には五十号を迎えます。そしてこの「願生がんしょう」とは別に仏教の教えを抛り所として生きる方の言葉を掲載している「徳朋とくほう」という読み物も三年前から毎月の月忌参りがつきまきを中心にお宅での報恩講時には、「いつも読んでいるよ」、「いいことが書いてあるね」などと声をかけて下さる方もいて、とても励みになりました。しかし仏教の言葉が誰の心にも無条件に響く訳ではありません。仏教の言葉を聞く私たちの側にも縁が整い、機が熟さなければ自分の課題としていただくことが出来ません。私たちの関心はいつも自分の外側に向かっていきますし、自分の思いを中心にして生きていますので、どうにかして自分の思いに叶うという事しか考えられません。そのような在り方を仏教では「無宿善の機むしゆくぜん き」といい、仏教を聞く機が熟していない状態です。心に響かない原因はここです。しかし人生は行き詰まる事だらけです。挫折や悲しみを通して外へ向けられていた視線が、自分の内側に向けられてきます。その心に仏教の言葉が響くのです。自分の思いに叶う事ばかりを求めてきたけど、「あるがまま」をいただいて歩む決心をしていく。そんな心にさせてくださるのが、仏の言葉です。



短い秋を経て、とうとう長く寒い季節に入りました。近隣の県では既に大雪に見舞われています。降らないで欲しいという私たちの思いとは関係なく、雪は雪が降るといふ道理によつて降りますので、私たちはただそれに従うしかありません。気温が寒くなる時に人は体調を崩しやすいように思います。この秋から冬にかけてご門徒の方で亡くなられた方が何名かいらつしやいましたが、その多くは元気な状態から急に体調を崩されて、そのまま亡くなられたというケースです。家族の方々も「まさか」という思いでいらつしやいましたので、葬儀の際にもまだまだ信じられないというような思いで、悲しみに暮れていらつしやいました。特に高齢になってからは風邪をひくだけでも肺炎のリスクがあり、インフルエンザに罹患し、亡くなられる方も多く見られます。改めて皆様におかれましては、体調に留意してお過ごしください。

私もご門徒の葬儀を執行しながら改めて感じる事があります。それは私たちの希望的観測（都合の良い思い込み）というものはつくづく根拠がなく当てにならないものだという事です。平安時代の歌人である在原業平は辞世の句として以下

のように詠んでいます。

つひに行く 道とはかねて 聞きしかど 昨日今日とは 思はざりしを（いつか来ることだとは知っていたけど、まさか死期が今来るとは思わなかった。）

辞世の句とは「死を見据えてこの世に書き残す生涯最後の句」の事です。この句はまさに私たちの死生観を言い当てている句ではないかと思えます。自分の死に対しても頭ではわかっているのですがいつかそのうち来る、大切な方との別離もいつかそのうち来るといふように、いつも自分の課題として考えられないのです。そして気付いた時には何の準備も出来ていないという事です。私も両親は後期高齢者となりましたが、亡くなるのはまだまだ先の事と勝手に思い込んでいます。ましてや自分の死なんかはイメージすら浮かびません。まさに希望的観測（都合の良い思い込み）です。この希望的観測によつて大切な今という時から目を背けて生きているのが私たちです。このように私たちはいつも物事を根拠もなく当てにならない希望的観測によつて捉えています。大切な方との別離というものは、そこには希望的観測から紛れもない真実へ私たちを呼び戻す、亡き人からの大切なメッセージであると思えます。



報恩講前の仏具磨き



境内の銀杏の木



もちつき会



門徒宅での報恩講参り



三本柿の干し柿



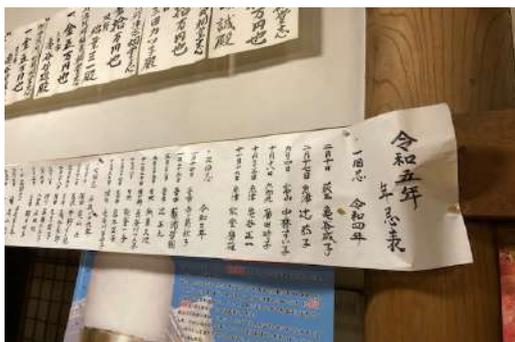
ハロウィンパーティ

お寺の光景



法要名・亡くなられた年

1周忌	令和4年(2022)
3回忌	令和3年(2021)
7回忌	平成29年(2017)
13回忌	平成23年(2011)
17回忌	平成19年(2007)
23回忌	平成13年(2001)
27回忌	平成9年(1997)
33回忌	平成3年(1991)
37回忌	昭和62年(1987)
43回忌	昭和56年(1981)
50回忌	昭和49年(1974)



法事は亡き人を偲しのび、同時に亡き人からの大切な願いを確かめていく仏縁の場です。

今年の年忌表は左記の通りです。年忌法要の当たり年のお方の名前を例年通り本堂に掲載していますので、ご確認ください。またお内仏(仏壇)内の脇掛けの法名軸にも御命日が記載されています。ご確認され該当される方、法要を行う方はご連絡ください。

年忌表



## 坊守日記



本年もどうぞよろしくお願いいたします。昨年は新型コロナウイルスから社会活動が再開される中、様々な行事・イベントを行うことが出来て、とても嬉しく思います。昨年のお寺での御正忌（十一月二十八日）の際に、皆さんの前で初めて法話をさせていただきました。初めての事だったので、勉強を含めた準備と練習に三週間ほど費やしました。いつもは何気なく聞いていたのですが、今回はとても緊張しました。とてもいい経験でしたし、総代さんをはじめ門徒さん方があたたかい言葉を送って下さり、とても心強かったです。人生はわかりませんね。十年前までは人前でこのようなお話をさせていただくとは想像できませんでした。が、ご縁というものは不思議ですね。これからも皆さんと一歩づつ歩んでいけたらと思っています。また御正忌では三年ぶりに作っていた「いとこ煮」がとても美味しかったです。



御正忌での法話

## 編集後記



新型コロナウイルスに関しては依然として感染者は多く出ていますが、世の中は出来る事はやっという流れになっています。そんな事もあり、何かこのコロナ禍において新しくできることはないだろうかと考えた結果、年末にお寺で餅つき会を行いました。当日はお寺の英語塾の子や、近所の子どもたちなど、大人を含め約五十名がお寺に集い、感染対策を行いながら餅つきを楽しみました。新たに臼と杵を購入して、昔ながらのやり方で楽しみました。コロナ禍でこれまでに様々な行事が制限されていた為に、参加した全ての人が本当に楽しく、充実した時間を過ごせたのではないかと思います。コロナのせいで何もしない事は楽な事ですが、多くの人の笑顔を見ると、本当にやって良かったと思います。



派大谷 宗親  
聖人 鷺親  
跡部 三本

## 辻徳法寺

〒938-0031

富山県黒部市三日市3214

TEL・FAX(0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokujoji.net>

[@temple\\_english\\_tokujoji](https://www.instagram.com/temple_english_tokujoji)



次回の定例法座の予定は3月10日（金）13時半～です  
1、2月は足元が悪いのでお休みいたします